

第6回部会の開催結果

■第6回部会

令和5年1月30日、2月6日に対面とオンラインの併用形式で3つの部会を開催し、各部会において各委員による今年度の取組状況および報告に関する情報共有、意見交換等を行った。

1. 各部会の開催概要

<普及啓発・適正利用部会>

日時：令和5年1月30日(月) 13:00~15:00

出席者：23名(個人4名、団体・法人4(8名)、行政8(13名) ※重複2名)

<学術調査部会>

日時：令和5年2月6日(月) 13:00~15:00

出席者：27名(個人9名、団体・法人7(14名)、行政4(9名) ※重複5名)

<海域・陸域対策部会>

日時：令和5年1月30日(月) 10:00~12:00

出席者：21名(個人5名、団体・法人3(6名)、行政7(12名) ※重複2名)

2. 今年度の取組状況および予定

事前に委員から提出された取組シートや当日の口頭説明等により、今年度の取組の実施状況および予定について共有を行った。

3. 部会で意見交換された事項

<普及啓発・適正利用部会>

○石西礁湖の飾り文字について

- ・石西礁湖の飾り文字についてコンテストの開催を検討する。
- ・コンテスト開催上の具体的な募集期間や場所、賞金について、メーリングリスト等を活用して方針を固める。

○その他

- ・ ボランティアがサンゴ調査を実施している事業者に同行し、調査状況を見学することについて検討する。
- ・ マリンアクティビティに関わっている人たちが、白化で衰退したサンゴ礁に対してできる活動について検討する。
- ・ Instagram 等を活用し、石西礁湖の海の状況について情報を共有していくことを検討する。

<学術調査部会>

○作業チームの進捗報告

- ・ 2022年に石西礁湖で発生した白化現象について、9月と12月の調査結果を共有した。
- ・ 天草陶石製定着基盤の代替の定着板材質の選定を進めることとする。

○石西礁湖のサンゴ礁保全に資する陸域負荷軽減策の提案に向けて

- ・ 今後も蓄積リンに着目し、陸域負荷の拡散状況を把握する。

○サンゴへのリン酸の影響の低減に向けたリンの島内循環共創クラスターの構築に向けて

- ・ リン酸の影響の低減に向けて、リンの島内循環をするような共創クラスターというものを構築し、「八重山うみしまフレンドシップ」の具体的なプロジェクトとしてやっていきたい。

○その他

- ・ 今後白化したサンゴに対して生き残る確率を上げるための方策等を探る。
- ・ 現在調査で使われている定着板の素材（天草陶石）の調達が今後厳しいため、複数年かけて定着板の代替素材の検討と、同時並行で実際の実施調査をし、代替の定着板の選定を進める。
- ・ 陸域負荷対策のため、環境に配慮した農法でできた作物に付加価値をつけていくことも検討していきたい。

<海域・陸域対策部会>

○一人一人が行動し皆で守る体制をつくることについて

守る体制を構築するための提案を主に資金面からのアプローチで議論を行った。

- ・サンゴ礁保全とダイバーの養成を組み合わせた新しい観光のスタイルのプログラムの実施を検討する。
- ・寄付金を受け付けたり、管理する窓口を整備する必要がある。

○具体的に行いたい「守る」ための対策について

- ・石西礁湖自然再生協議会の YouTube や Instagram の開設を検討する。

○沈砂池と海の汚れについて

- ・台風時等に、沈砂池に雨水が流入することによってオーバーフローし、濁水が海に流入することがある。